

## 動く→動かす 年次活動報告 (2009年7月～2010年6月)

### 1. 「動く→動かす」を取り巻く状況

---

2010年の世界はいまだ、経済危機の影響に苦しんでいます。途上国においては、雇用・収入の喪失、労働条件の劣化、さらには栄養摂取や医療、教育へのアクセスの悪化が伝えられており、特に女性が深刻な影響を受けています。先進国を始めとする国際社会が、貧困層・貧困国を支える制度・政策を、南への資金還流とともに確立することは、急務です。

MDGs 達成期限を5年後に控え、国際社会が強い意志と具体的な計画を示せるかどうか問われる2010年、ODA増額に関するG8のグレンイーグルズ公約は40%も不履行のまま、その期限を迎えました。世界経済の統治体制も流動的です。昨年イタリアで地位の低下を晒したG8は、今年のカナダ・サミットでは世界経済について議論する役割を放棄し、開発と安全保障のみを話し合う予定です。一方のG20では、新興国が影響力を増しているとはいえ、貧困国の声は概ね、蚊帳の外に置かれたままです。このような状況のため、国連MDGsサミットに向けた期待値が下がる危険性が高まっており、GCAPによる国際的な協調的キャンペーンが求められています。

昨年発足した日本の新政権には、鳩山総理大臣が国連総会での演説で表明した、MDGs達成に向けた「努力の倍加」の具現化が、国内外から期待されていました。しかし、その後、国際開発 이슈については、国内政治の混乱の下、後景に退いてしまっています。昨年12月より、岡田大臣の指示により外務省で行われた「ODA見直し」事業は、透明性などに問題を抱えながらも、このような状況を打開しうる中身が打ち出せるかどうか注目されてきました。さる6月29日に発表された「ODA見直し」報告は、ODAの三本柱の一つに「貧困の削減」を打ち出し、援助のプログラム化やNGO支援の拡大など、一定肯定的に受け止められる内容を含んでいます。この「見直し」の成否は、今後、これがMDGsの達成や世界の貧困削減に向けてどの程度実践されるか、また、外相のみならず首相も含めた政府のリーダーシップを発揮しうる体制が作れるかにかかっています。

「動く→動かす」は、国内外のこのような流動的な環境の下、着実に力を付けてきました。以下の各活動報告にも明らかなように、政策アドボカシーのターゲットに対する影響力、およびパブリック・モビライゼーション活動の動員力ともに、向上しています。

## 2. 活動総括

---

### 【活動目標A】 ODAの量・質の向上に向けた政治・メディア環境を整備する

---

#### ◆ 政策チーム ハイライト

この1年間は、政策チームにとって、何といても政権交代がもたらした機会と課題に挑戦した1年となりました。

より積極的に NGO との直接対話を行おうという政党が、「コンクリートから人へ」をスローガンに政権を獲得したことは、過去の政権下では考えられない、直接的な提言の機会を得られるようになったことを意味します。事実、国連での鳩山総理の演説に、「動く→動かす」が提言した「努力の倍加」という文言がそのまま反映されたことなどは特筆に値しますし、目下外務省内で進められている「ODAのあり方に関する検討」作業において、政務三役・担当課双方のレベルで、非公式ながらも「動く→動かす」との対話がしっかりと重視されているのも、政権交代によって初めて可能になったことであり、また政策チームが、機会を掴み、戦略的かつ臨機応変に関与してきたことの成果と言えます。

一方、援助の具体的ニーズや国際潮流に対する政治の側（政務三役）の認識が十分ではないという文脈において、政治主導の意思決定プロセスは多くの困難ももたらしています。国際会議でのレトリックはより MDGs に親和性の高いものになる一方、政策内容が具体的に成ればなるほど、担当官僚から上にあげることが困難になり、前に進まないという事態が、分野別政策策定のプロセスで起こっています。また、政権・与党全体の戦略に国際協力が位置付けられていないため、特に予算圧縮の圧力と省庁横断的な取り組みの欠如により、政府首脳が国際場で行使するレトリックと大きく矛盾する予算措置が行われています。

国外に目を転じると、これまで日本の開発政策を引き上げる上で重要な多国間協議の機能を果たしてきた G8 が影響力を失いつつあり、代わりに新興経済国などが入った G20 が急速に重要性を増しています。G20 全体の開発ディスコースが、貧困層の経済権や社会権の問題をどう扱うかによって、日本の、そして世界の MDGs 達成に向けた展望は大きく左右されることとなります。

今後「動く→動かす」の政策活動には、以下のことが求められています。

- 外務省内で可能な限り進歩的な内容の「ODA 見直し」方針を実現させ、改革の具体化プロセスに関与していく
- 国連 MDGs サミットで、総理大臣が MDGs 重視の意思表示および誓約を行うよう、働きかける
- 日本政府全体が MDGs を中心に据えた ODA を行うよう、財務省をはじめとした他省庁および与党への働きかけを行う
- 前向きな改革をしっかりと社会的に意義づけさせるためにも、主要メディアの理解・認識進化を促す

- 韓国をはじめとするアジアの G20 諸国の GCAP との連携・協働を強める。GCAP Korea とは、第 4 回援助効果に関するハイレベルフォーラム（2011 年、韓国）に向けた連携も行う

#### ◆ TICAD アドボカシー・チーム ハイライト

TICAD アドボカシー・チームでは、本年度、二つの大きな取り組みを行いました。一つは、2009 年 10 月にアフリカの市民社会から 3 名の代表を招聘して日本・アフリカ市民社会の戦略会議と、TICAD に関わるステークホルダーのラウンド・テーブルを開催したこと、次に、2010 年 5 月にタンザニア・アルーシャで開催された第 2 回 TICAD IV フォローアップ閣僚会議に、11 名のアフリカ市民社会代表と日本の市民社会代表が参加し、会議の正式なカリキュラムとして二つのプレゼンテーションを行ったことです。

10 月の戦略会議では、3 名のアフリカ市民社会代表とともに、今後の TICAD に向けたアクション・プランを作りました。また、ラウンド・テーブルでは、西村智奈美・外務大臣政務官から「新政権は TICAD への取り組みを継続・強化する」との発言を頂きました。

5 月の閣僚会議には、アフリカ各地から 11 名の市民社会代表が参加。公式のプログラムの他、市民社会セッションなども開催。また、今後のアドボカシーに向けて、「アフリカ市民社会協議会」(Civil Commission for Africa) がアフリカ側のネットワークとして再生し、新たな運営委員会の下に、今後、アフリカ主導で TICAD その他へのアドボカシーを行って行く方向性が確立しました。

**【活動目標 B】世界の貧困の解消を自らの問題として捉え、行動する市民が、つながりを持ち活動できる環境を創る。**

---

#### ◆ パブリック・モビライゼーション・チーム（以下パブモビ・チーム） ハイライト

4 年目に入った「スタンド・アップ テイク・アクション」(10 月) を今年も継続して実施しました。また、①MDGs の理解促進のためのツール「アフリカの村から～エリナの物語」(10 月) を UNDP および「チャイルドアフリカ」と共同制作、②「動く→動かす」と共にアドボカシー活動を進める人材を発掘、育成するための「社会を動かすアドボカシー実践講座」(3 月) を加盟団体と共同実施など、「動く→動かす」としての新たな事業にも着手しました。

2006～2008 年まで実行委員会形式で実施されていたスタンドアップ・テイクアクションの体制を見直し、2009 年からは、「動く→動かす」が主催。パブモビ・チームがその運営を主体的に担うようになりました。参加人数も大幅に伸び、全国 46 都道府県 3 万 4255 人が参加しました。実施されたイベント数 675 件は、世界でも 2 番目に多く、日本国内にスタンドアップ・テイクアクションのイベントとしての知名度が浸透してきたといえます。一方で、立ち上がった成果がわかりにくい。スタンドアップ・テイクアクションで見つけた仲間ともっと恒常的につながるシステムが必要ではないかなど、今後の課題も浮き彫りになりました。2010 年に向けてこれらの課題を解決し、より政策への影響やその成果が見えるスタンド・アップ テイク・アクションの実施に向け、準備を進めています。

3月に実施した「社会を動かすアドボカシー実践講座」には、19名が参加。社会人として、自分の所属する学生グループを生かして、自分のできるアドボカシー活動のヒントを共に探りました。講座プログラムの一環として、MDGs達成に向けた活動、アドボカシー活動の具体的な活動への理解を深めるため、加盟団体への訪問も行いました。また、この講座の受講生から、社会人をターゲットとしたアドボカシー活動を行うグループが発足しました。パブモビ・チームでは、このような自主活動を行うグループを今後もサポートしていきたいと考えています。

パブモビ・チームには、加盟団体10団体22名が積極的に参加。ほぼ月2回のペースで行われたミーティングで活発な意見交換を行い、効果的に活動を行いました。

**【達成目標C】世界の貧困の解消に関心を持つNGO間のネットワークを強化し、他セクターとの連携の下、「貧困をなくそう」というムーブメントを、日本社会に芽吹かせていくための基盤を整備する。**

---

#### ◆ 組織運営分野 ハイライト

2009年3月に42団体で発足した「動く→動かす」は、1年半後の今日、56団体の参加を得て、MDGsを達成し、世界の貧困をなくすためのNGO・市民社会のネットワークとしての存在を確立しました。NGO間のネットワーク強化には、継続的な政策提言やパブリック・モビリゼーションに加えて、事務局として、政府によるNGO支援スキームの改革に継続的に取り組み、とくに「NGO連携無償資金協力」(N連)の改革などを、多くの加盟団体とともに取りまとめたことや、NGO・外務省定期協議会「連携推進委員会」などで、様々な提言活動を行ったことも有効に機能しました。

資金的には、当初、資金不足が懸念されましたが、国連ミレニアム・キャンペーンからの助成に加え、上記NGO支援スキームの改革に関して外務省の委託事業「NGO研究会」を実施したこと、また、加盟団体等とも協力して、いくつかの海外の財団を経由した事業助成を確保したことにより、ある程度、安定的な資金確保ができました。この経験をもとに、本年度については、より充実した財政状態を目指して取り組むことができるようになっていきます。

他セクターとの連携については、政策提言やパブリック・モビリゼーションの取り組みの中で積極的に行いました。政策提言分野では、日本の貧困問題に取り組むグループで作る「反貧困ネットワーク」との間で「日本版MDGs」の策定に取り組みました。また、気候変動や生物多様性の分野では、それぞれのNGOネットワークとの協力関係を築くことができました。また、スタンド・アップの取り組みを通して、民間企業やスポーツ界などとの連携も強化することが出来ました。これらは、いずれも、今年度以降の活動を展開していく上で大きな財産となっています。

### 3. 動く→動かす 2009年7月～2010年6月 活動成果

活動分野	計画内容	活動成果	実施体制/備考
<b>【達成目標A】 ODAの量・質の向上に向けた政治・メディア環境を整備する</b>			
A-1. 国際的な貧困問題への政策的取り組みを優先する国会議員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>援助体制や政策について、定期的な政策対話の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政務三役との不定期な直接・間接対話</li> <li>各党衆議院選マニフェストへのアドボカシー活動を通じたチャンネル構築</li> <li>院内勉強会、ODA改革パブリックフォーラムなどでの協働を通じた現行 ODA の問題点に関する認識共有</li> </ul>	政策チーム
A-2. 政治・政策課題としての貧困・開発問題のマスコミ上での露出の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディア関係者との関係構築</li> <li>メディア向け勉強会の実施</li> </ul>	<p>以下の主催イベントを行い、取材が入ったが、報道件数については不明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー『政権交代：新政権は気候変動・貧困にどう取り組むべきか＝G20・COP10に向け問われるリーダーシップ』（2009年9月8日）</li> <li>インド洋での給油活動に代わるアフガニスタンでの民生分野支援の活動について、緊急記者会（2009年11月10日）</li> </ul>	政策チーム/パブモビ・チーム
A-3. ODA 予算の増額と質の改善に向けた政策提言の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治家、外務省、財務省へのロビイング</li> <li>G8、G20、TICAD 関連会議、2011年援助効果会議などの機会の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2009年国連総会における鳩山総理の「努力の倍加」演説</li> <li>熊岡代表を通じた岡田大臣アドバイザー・グループへの提言アクセス</li> <li>外務省内の主要な審議官、局長、課長との信頼関係、提言。</li> <li>N 連改革について、一部実現。援助協調につい</li> </ul>	政策チーム/パブモビ・チーム

		<p>ても、一歩前進か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● GCAP Korea との関係構築、G20 ソウル・サミットに向けた協調(今後は援助効果 HLF に向けても)</li> </ul>	
A-4. TICAD (アフリカ開発会議) プロセスを通じた対アフリカ開発政策への政策提言の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● TICAD 共催者との政策協議 (ラウンドテーブルの実施)</li> <li>● アフリカ市民社会との連携、合同会議の実施</li> <li>● TICAD フォローアップ会合への参加、提言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● TICAD に関わるステークホルダーのラウンド・テーブルを実施。外務省政務官、TICAD 事務局、アフリカ外交団代表などが参加</li> <li>● 3 名のアフリカ市民社会代表を招聘して、後魚津会議を実施</li> <li>● TICAD 合同モニタリング会合 (東京)、閣僚会合 (タンザニア) にチームメンバーを派遣。アフリカ市民社会と共同で提言を実施</li> <li>● TICAD フォローアップに特化したウェブサイトの構築、NGO の情報の収集</li> </ul>	TICAD アドボカシー・チーム アドボカシー・チーム/政策チーム
A-5. 非 ODA 課題に関する「動く→動かす」の政策能力の強化、もしくはそれら課題に取り組む NGO との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CAN-J/Make the Rule/生物多様性ネットワーク関係諸団体との関係構築を通じ、連携の可能性を模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 気候変動資金をめぐる、環境 NGO とのアドボカシー協力やパブリック・イベントの共催</li> <li>● 生物多様性ネットワークへの参画</li> </ul>	政策チーム
<b>【達成目標B】世界の貧困の解消を自らの問題として捉え、行動する市民が、つながりを持ち活動できる環境を創る。</b>			
B-1. 貧困問題にすでに関心を持っている人が「動く→動かす」と共に活動を展開できるためのスキル・情報の提供、活動環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「貧困の仕組みを理解し、アドボカシーを理解・実践する個人を育成するプログラムの実施</li> <li>● MDGs の重要性・進捗が単なる国際目標としてではなく、途上国の人たちの現状から理解でき、その解決に向けた行動を考えるきっかけとなるツールを製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「社会を動かすアドボカシー実践講座」第 1 回を 3 月 13、27、28 日に実施。19 名が参加。</li> <li>● 上記実践講座の受講生から、「SUTA-CSR 研究会」が誕生した。</li> <li>● 「アフリカの村から～エレナの物語」を Child Africa&amp;UNDP と共に制作。</li> <li>● スタンドアップ・テイクアクション 2009 の際に学校向けの教材を作成</li> <li>● スタンドアップ・テイクアクション 2010 に向け</li> </ul>	バブモビ・チーム

		た開発教育教材の作成（準備中）	
B-2.世界の貧困の解消に向けたポピュラーな運動の創造、市民参加の機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スタンド・アップ テイク・アクションの継続的な実施（2015年まで毎年）</li> <li>• 南アフリカで開催されるワールドカップの機会に向けた、アフリカ&amp;MDGs への関心を高めるプログラムの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2010年実施（報告書参照）。2010年9月17～19日の実施に向けて準備中。</li> <li>• 「アフリカの村から～エレナの物語」を作成</li> <li>• ワールドカップに向けたキャンペーンなどは実施しないこととした。</li> </ul>	パブモビ・チーム
B-3.政策と連動したアクションの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ウェブや他セクターとの連携を通して、国内外の重要な政策決定時期に合わせた、アドボカシーアクションの企画・実施</li> <li>• GCAP グローバルと連携した、パブリックモビライゼーションの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 参議院選挙に向けて、各政党に国際協力に関するアンケートを送り、内容を公開。</li> <li>• スタンドアップ・テイクアクションの実施。</li> </ul>	パブモビ・チーム/政策チーム
<p><b>【達成目標C】世界の貧困の解消に関心を持つNGO間のネットワークを強化し、他セクターとの連携の下、「貧困をなくそう」というムーブメントを、日本社会に芽吹かせていくための基盤を整備する。</b></p>			
C-1. 「動く→動かす」のパブリックイメージの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 広報、ブランディング戦略の作成、実施</li> <li>• コミュニケーション・ツールの整備（ウェブ、リーフレットなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ブランディング戦略の策定</li> <li>• ウェブサイトの構築</li> </ul>	事務局/パブモビ・チーム
C-2. 世界の貧困の解消に関心を持つ多くの NGO の参加促進及びネットワークの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• パートナーシップ・フォーラムの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4月7日「1周年イベント」の開催（今後「パートナーシップ・フォーラム」として実施）</li> </ul>	事務局/運営委員会/各チーム
C-3. 確実で安定的な財政基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己財源を中心とした資金調達体制の構築</li> <li>• 他セクターとの協力</li> <li>• 個別事業に対する助成金の獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 正会員の拡大</li> <li>• 国連ミレニアム・キャンペーンからの安定した財源の確保</li> <li>• 海外の財団からの安定した財源の確保</li> </ul>	事務局/運営委員会
C-4. 「世界の貧困を解消する」という目的を共有する、多くの他セクターの人々や組織との連携を強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連携委員の選任、連携強化</li> <li>• 各セクターとの定期的な対話の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運営委員会の拡大強化</li> <li>• 他分野 NGO セクターとの連携強化</li> <li>• 他セクターとの連携強化（スタンド・アップを通じて）</li> </ul>	事務局/運営委員会

以上